

ITを活用した金融の高度化に関するワークショップ第2回

金融取引チャネルとセキュリティについて

日本銀行 金融機構局
金融高度化センター長
岩下直行

1. 取引チャネルの拡大とセキュリティ

- ① ATMとインターネットバンキングは、金融ITがもたらした大きな成果。
 - 銀行取引の顧客利便性が大きく向上。
 - 金融機関の人件費コスト、出店コストの削減に寄与。
 - 既に主要な取引チャネルであり、店頭での紙ベースの取引に戻ることはもはや不可能。

- ② 他方、ATMもインターネットバンキングも、様々な攻撃の対象となっている。
 - 攻撃者は預金者の認証情報を盗み取り、不正な送金や預金引き出しにより預金を盗み出そうとする。
 - 攻撃手口は年々高度化しており、金融機関がいかに対策を講じても、その裏をかく手口が編み出される。
 - ATMやインターネットで提供するサービスの水準を再考すべきとの声も。

2. 外部からの隔離とその境界線の拡大

① ATMやインターネットが出現する以前から、銀行システムは「外部からの隔離」をセキュリティの基本設計としてきた。

- 銀行の内と外とを隔離し、外部からの攻撃を困難にする作戦。
- 一旦銀行の内側に入った利用者や職員に対しては、利便性、効率性を重視する傾向。

② ATM(特に店外ATM)やインターネット経由の取引は、こうした隔離の境界線を利用者側に押し広げようというもの。

- 顧客の利便性のためには必要だが、暗証番号やパスワードのような素朴な対策だけで、外部を内部のように扱おうとすると、攻撃側に付け込まれる隙が生まれる。
- そうして生じた隙が、過去の様々な事件に繋がった。

3. セキュリティ対策の効果とコスト

① 利用者の預金を犯罪者から守り、不正な送金、引出をさせないことは金融機関の責務であり、安全対策の更なる充実が必要。

— 特にインターネットバンキングについては、安全性への懸念から取引を行わないとする利用者が多数存在。そうした利用者に信頼されるためにも、利用者を受け入れられやすく、実効性のある安全対策を講じていく必要。

② とはいえ、セキュリティ対策に無限のコストをかけられない以上、ビジネスとして提供する預金サービスにおいて、どの水準までの対策を講じるべきかが問題。また、利用者に安全で適切な利用を促すための方策についても、様々な選択肢が存在。

③ 利便性とセキュリティとコストのトレードオフ関係を意識したうえで、どのような選択を行うべきか、本日のセッションで議論していきたい。